

会 議 録

公開・非公開 の別	【開催日】平成30年9月28日(金) 【時 間】13時30分～15時30分	【傍聴人数】0 【傍聴室】
公開	【場 所】岸和田市役所 新館4階第1委員会室	岸和田市役所 新館4階第1委員会室
【名称】平成30年度第2回岸和田市補助金、負担金等適正化委員会		
【出席者】		
○は出席、■は欠席		
足立委員	和田委員	城戸委員
○	○	○
《事務局》企画調整部：渡辺理事 企画課：滝石主幹、川中担当員		
【議題等】		
1. 行財政改革の取組について 2. 補助金等のあり方・方向性について		
【会議録概要】		
●委員全員の出席により、委員会の成立を確認。 ●事務局より、行財政改革の取組について説明と協議。 ●事務局より補助金等のあり方・方向性について説明と協議。		
1. 行財政改革の取組について		
事務局：（行財政再建プラン中間報告について説明）		
委 員：ありがとうございました。ただ今の事務局の説明に対して、何かご質問、確認事項等はありませんか。		
委 員：集中改革期間に財政効果が現れる主な取組について、今後更なる効果額の上積みを検討するとありますが、新たに審議会等を立ち上げ検討を実施するのでしょうか。		
事務局：中間報告には、8月時点で今後の方向性が一定取りまとまったものについて効果額を計上しています。これら以外にも点検を実施した事業があり、今後更なる調整を行い、効果額を計上できるものがあればプランの項目に追加していきたいと考えています。		
委 員：ごみ処分手数料の見直しが効果額の大半を占めていますが、この効果額には変更可能性があるのでしょうか。		

事務局：見直しの方針について、岸和田市、貝塚市、一部事務組合で協議を行っているところで、現時点における方針に基づき効果額を計上していますので、今後、変更の可能性が
あります。

委員：行財政改革で生み出した財源で拡充する施策の中に、中核市移行が記載されています。
中核市に移行することで、保健所の設置等により新たな職員の配置等の追加費用も生じ
るため、行財政改革とは馴染まないと思われます。

事務局：中核市移行に関しては、6月議会、9月議会において関連議案が否決されました。プラ
ンの中間報告は8月上旬に取りまとめたものですので、内容については必要に応じて今
後修正を行います。

委員：民間保育施設に対する補助金について。

事務局：民間保育所、認定こども園に対する補助金について、現在は経営支援的な補助金となっ
ています。待機児童解消に向け、より効果的な補助となるよう制度の再構築を行うもの
です。

委員：他にございませんでしょうか。無いようでしたら、次の「補助金等のあり方・方向性に
ついて」に移ります。

岸和田市から本委員会への諮問内容に対して、第2回委員会の開催にあたり、事務局と
整理の仕方等を調整し、本委員会で議論、協議できるよう内容を整理しました。それで
は、事務局から説明をお願いします。

事務局：（補助金等のあり方・方向性について説明）

委員：ありがとうございました。ただ今の事務局の説明に対して、何かご質問、確認事項等は
ございませんか。

委員：1点目に、基本原則（案）の中の①公益性について、「市民の福祉の向上に寄与するもの」
と記載されています。補助金の中には、産業振興等、福祉目的以外の補助金もあります
ので、表現を改めてはどうでしょうか。

2点目に、③適格性について、「過度に補助金に依存することなく、自主的かつ自立的な
運営を行うとともに」と記載されています。これは、補助金全体に係る事項であると考え
られますので、その前の基本方針（案）に入れてみてはどうでしょうか。

最後に、基本原則の並びの順番ですが、①公益性と④有効性については、ともに書き出

しが補助の目的及び効果について言及していますので、順番に並べてみてはどうでしょうか。

事務局：表現等について検討の上、改めて提示します。

委員：対応（案）として事業補助への転換をあげていますが、運営補助金のなかには事業補助への転換が難しいものもあります。委託等、他の予算費目への移行も検討してはどうでしょうか。

委員：補助金の体裁を事業補助としても、事務が増えるだけになるケースも想定されます。一律に事業補助というのも乱暴に思われます。無理やり事業補助に転換するのではなく、補助の算定基準を利用率・利用者数等の実績を踏まえたものに変更する等の手法も検討できるのではないのでしょうか。

委員：すべての補助金を事業補助へ転換することは難しいと思われれます。事業補助への「転換」という文言について、表現を改めてはどうでしょうか。

委員：実現が可能かどうかという点も踏まえ、どのように記載するかを検討すべきと考えます。

事務局：他市町村において、事業補助への転換を基本としている事例は多くあります。文言及び方向性については、今後、個々の補助金の検証結果を踏まえて検討して頂きたいと考えています。

補助金の算定基準については、先行して一部の補助金で見直しに着手しているところです。インセンティブが働き補助効果が大きくなるよう、補助金交付の実績を踏まえた補助額に見直したいと考えています。

委員：インセンティブという考え方は非常に重要であると考えます。プレゼンを実施し、その評価に応じて補助額を決定する等の手法も検討が可能と思われれます。

委員：成果に応じて、補助金を後払いする等も検討できるのではないのでしょうか。補助金の交付時期や目標設定等の整理についても検討すべきと考えます。

委員：他にございませんでしょうか。無いようですので、本議題を終了します。

「補助金のあり方・方向性」の資料に示される、基本原則（案）、課題（案）、対応（案）について議論を行い、一定整理を行いました。本日の到達点としてはここまででよろしいでしょうか。

事務局：はい。次回の委員会においても、本日説明した以外の補助金について同様の整理を行い、更なる議論を行っていただくことを想定しています。

委員：わかりました。では、次に今後の委員会の日程について事務局から説明をお願いします。

事務局：次回の委員会は、2019年の1月下旬を予定しています。ご出席の程よろしく申し上げます。

委員：他に質問等はありませんでしょうか。(質問等、なし)

これで、本日の議事内容すべての審議が終了しました。

以上をもちまして、平成30年度第2回補助金、負担金等適正化委員会を閉会します。

ありがとうございました。

以上